一般質問という名の政策提案

９月定例会は議員９名が登壇

町民の思いや願いを届ける65分

一般質問

※青字は、質問の概要を掲載しています。
※各問答は、質問者の責任で作成した原文を掲載しています。問い合わせは、各議員にお願いします。

登壇議員	質　問　事　項
半沢（はんざわ）正保（まさやす）	❶ 子育て世代に選ばれる魅力ある義務教育学校について ❷ イオンモール伊達の開業を好機とした桑折町商工業の発展について
斉藤（さいとう）謙（けん）	❶ 財政運営等に関して 2 福祉政策等について 3 太陽光発電の設置に関して ❹ 小学校統合を見据え、より広い視野等に関して
鈴木（すずき）隆志（たかし）	❶ 義務教育学校の整備に伴う放課後児童保育のあり方について 2 小学校及び中学校における名札着用の必要性について 3 小学校及び中学校における制服着用の必要性について 4 熊出没に伴い欠席した場合の出欠の取り扱いについて ❺ 国民健康保険資格確認書の更新の取り扱いについて
川名（かわな）静子（しずこ）	❶ 防災と避難所におけるジェンダーに関して ❷ 学校教育全般に関して
羽根田（はねだ）ひとみ	1 シティプロモーションの効果について ❷ 国道４号線沿いへの「道の駅」設置について ❸ 醸芳中学校西側堰下地区の開発構想について 4「桑折」の漢字表記について
半澤（はんざわ）高（たかし）	❶ 災害時の避難所等のあり方について（特に酷暑の中での避難所等のあり方について） 2「街の住みここちランキング」福島県内１位（３年連続）と今後について ❸ 町有地の売却等と樹木・雑草の管理について
岡本（おかもと）貴士（たかし）	❶ 今後４年間のまちづくりについて（国保税の負担、認知症、孤独・孤立、介護の予防） ❷ 今後４年間のまちづくりについて（農業産業振興）
川村（かわむら）滋道（しげみち）	1 義務教育学校関連について 2 桑折町の教育行政に関連して ❸ 本町の降ひょう被害に関連して 4 本町の運転免許返納者対応に関連して ❺ 本町の文化財保存会に関連して
齋藤（さいとう）松夫（まつお）	❶ 上水道第５次拡張事業と水道料金対策について ❷ 義務教育学校設置方針見直しについて 3 公立藤田病院に対する繰り出し金について 4 審査請求裁決の前提たる審査委員会審査内容について

一般質問とは、議会で議員が行政（町長や役場など）に対して、町民の関心事や問題点について質問し、その答えを求める制度です。これにより、行政の運営状況を確認し、政策の改善や問題の解決を図ることを目的としています。

質問 一人ひとり伸ばす義務教育学校に

答弁 様々な対策を準備していく



半沢（はんざわ） 正保（まさやす） 議員

問 義務教育学校の開校を契機に、「伸ばす・見つける・つなげる」を柱とする桑折町独自の教育を確立し、福島大学等との連携や桑折学習塾の拡充、地域人材の活用、成果検証を進め、一人一人の学力と個性を伸ばす教育へ抜本的に改革する考えを伺う。

答 **教育長**　桑折ならではの質の高い教育については、今後「教育課程編成委員会」において詳細に検討していく。桑折学習塾は、さらなる学力向上に向け実施していく。

問 充実した子育て支援と魅力ある義務教育学校を人口減少対策の柱と位置付け、住宅・仕事・保育の一括相談など「教育移住」の仕組みを整え、町外の子育て世代から選ばれる町づくりを進める考えを伺う。

答 **町長**　移住定住先として選ばれるよう、子育て支援策「保育料無償化」を推進していく。



桑折ならでは「０歳から質の高い子育て環境」を

質問 イオンモール伊達との連携強化を

答弁 近隣７市町村と連携強化する

問 イオンモール伊達の開業を好機とした桑折町商工業の発展について桑折町行政の取組を伺う。

答 **町長**　イオンモール伊達との連携については、令和３年５月より近隣７市町村と連携しながら、観光物産の魅力向上や周遊促進事業などについて協議を進めてきたところであり、今般「わが街の魅力発信コーナー」の設置や「デジタルスタンプラリー」の共同開催、有料による町内特産品の販売コーナーの設置等について調整がついたことから、桑折町商工会はもとより、関係団体の協力も得ながら事業を進めていく。



活力ある桑折町　楽市楽座 with 盆フェス

質問 人件費の構成比を類団並みにする

答弁 こおり青空こども園に移行し減少



斉藤（さいとう） 謙（けん） 議員

問 類団と比較して高い数値を示しているが、その要因として、教育公務員が類似団体と比較し、毎年多いが何故か。

答 **町長**　教育公務員については、醸芳幼稚園の教諭数であり、幼稚園教育要領に基づいた教育活動の実施と特別支援教育の充実など、全ての子供を大切にする取り組みを推進するために必要な配置を行っている。

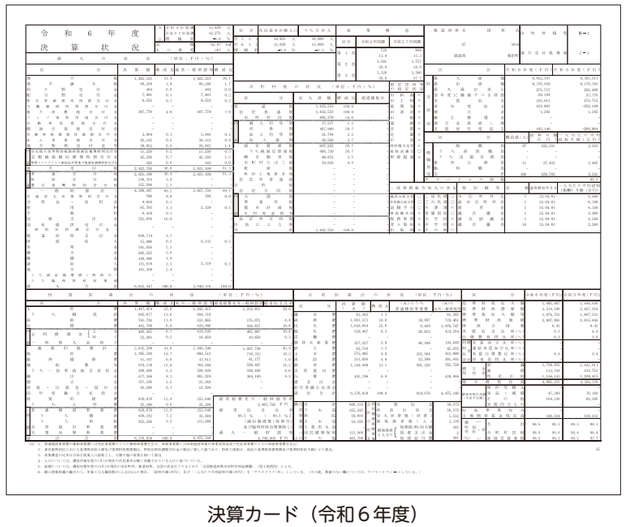
質問 教育移住者の増加を図るべき

答弁 転入超過という結果に繋がってる

問 教育移住者を増加させるために、「ブランド化」し人口減少対策に繋げる。

教育を単なる行政サービスではなく、「最強の移住・定住促進ツール」と位置づけ、他の自治体との差別化を図るための「旗印」として９年生の義務教育学校を推進するべきでないか。

答 **教育長**　各分野における総合政策であり、本町においては、最上位計画である総合計画「献上桃の郷こおり未来躍動プラン」に掲げる６つの重点プロジェクトを総合的に推進してきたことで社会動態の転入超過や交流・関係人口の創出など充実した支援策が高い評価を得、転入超過という結果に繋がっており、今後、更に、義務教育学校の設置を大きな契機と捉え、他に秀でた「桑折ならでは」の魅力的で質の高い教育を実現することで、自ずと移住・定住先として選ばれる町になるものととらえております。



決算カード（令和６年度）

これも質問

問 太陽光の設置は６地元との合意形成が必要

答 町は条例に基づく届出に至らない

問 精神障害有無に拘わらず地域の一員

答 情報を周知させ、担当課で親切に説明する

質問 義務教育学校の放課後児童クラブは

答弁 今後、具体的方針を協議していく



鈴木（すずき） 隆志（たかし） 議員

問 義務教育学校を整備する計画の中で、現在、小学校4校に設置されている放課後児童保育をどのように整備していくのか。

答 **教育長**
放課後児童クラブについては、「桑折町義務教育学校基本構想検討委員会」から報告された「桑折町義務教育学校基本構想・基本計画（案）」において、義務教育学校と同一敷地内に併設する方針が示されており、今後、「桑折町義務教育学校基本構想検討委員会」の報告を尊重しながら、具体的な方針や運営体制について、教育委員会において、協議し総合会議を経て町の方針を決定していく。



今後の放課後児童クラブのあり方は

質問 国民健康保険資格確認書の更新は

答弁 予定期日まで届いたと捉えている

問 国では、資格確認書の具体的な発送時期を定めていない、本町では有効期限の何日前まで届くことを目標に発送しているのか。

答 **町長**
厚生労働省から、7月5日マイナンバーカードのデータが送られてきてから、データとの照合、住民の移動等チェックするので、どうしても、発送が有効期限の前日の7月30日まで届くようなスケジュールになっている。

問 資格確認書の転入、転出者への対応、また、紛失した場合どのような取り扱いとしているのか。

答 **町長**
税務住民課に転入、転出届けが提出されたら、その都度、確認の上説明している。また、紛失した場合、身分証明書持参すれば、即日発行できる体制となっている。

問 資格確認書が届いていなかった場合、医療機関の受診に支障が生じないよう、町ではどのような対応をしているのか。

答 **町長**
基本10割負担となるが、医療機関から、町に問い合わせがあり、資格確認書の対象者であることを伝え、10割負担となるケースが発生しないように対応している。

これも質問

問 防犯・個人情報保護の観点から名札の着用は

答 登下校時、着用しないように指導していく

問 義務教育学校の制服について今後の検討は

答 児童生徒や保護者の意見を重視協議していく

問 熊出没により登校を控えた場合の出欠基準は

答 校長の判断により出席停止扱い可能としてる

質問 避難所におけるジェンダーとは

答弁 実効性のある組織を速やかに検討



川名（かわな） 静子（しずこ） 議員

問 熊本地震に始まり、千葉での豪雨そして全国各地で災害が発生しております。大規模災害のたびに高齢者、障がい者、妊婦、子ども等への課題が変わらないのは何故か。無償ケア労働を担ってきた女性が避難所には少ない事から見逃されやすいニーズを汲み取る事ができないから必要なのだが本町の現状はどうか伺う。

答 **町長**
していないが防災訓練で課題を想定し、実効性の高い訓練にしていきたい。

問 災害が起きて気づく事が多い。町防災計画の女性委員は増えたか。県の女性委員数は8・1％ワースト5位だ。また防災士の組織化はいつできるのか。

答 **町長**
女性委員の視点は重要と捉えているが1名だ。関係機関に対し女性リーダーの推薦・派遣を積極的に働きかける。また条例で定めるマックスまで増やせるか、実効性の高い組織を速やかに検討する。

新たな防災気象情報と避難情報について

命を守る事を優先に早目の避難をしよう

防災気象情報（気象庁が発令）

	状況	河川氾濫	大雨	土砂災害	住民がとるべき行動
警戒レベル5相当	災害発生又は切迫	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
～＜警戒レベル4までに必ず避難＞～					
警戒レベル4相当	災害のおそれが高い	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂危険特別警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル3相当	災害のおそれが高い	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	危険な場所から高齢者等は避難
警戒レベル2	気象状況悪化	レベル3 氾濫注意報	レベル3 大雨注意報	レベル3 土砂災害注意報	自らの避難行動を確認する
警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ	早期注意情報			災害への心構えを高める

避難情報（市町村が発令）

警戒レベル	
5	緊急安全確保※1
～＜警戒レベル4までに必ず避難＞～	
4	避難指示
3	高齢者等避難※2

危険な場所に居る場合はレベル4までに避難してください。
※市町村が発令する避難情報は、防災気象情報などを参考に、状況を総合的に判断して発令します。そのため、気象情報の警戒レベルと一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※1 警戒レベル5緊急安全確保は、必ず発令される情報ではありません

※2 高齢者や障害のある人、妊産婦、乳幼児連れの人など、避難に時間がかかる人は避難を開始するタイミングです。それ以外の人も、必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたり自主的に避難をするタイミングです。

質問 醸芳っ子の学力は町民関心の的だ

答弁 町民周知は教育委員会で話し合う

問 全国学力調査の結果を捉えた総括と対策は。

答 **教育長**
本町全体として小の算数、中の国語・数学・英語は県平均を超えた。主体的・対話的で深い学びの実践等から成果として現れつつある。

問 課題をどう分析し各学校に指示するのか。

答 **教育長**
各学校の分析結果を速やかに指導に生かすよう指示した。

問 4年後にはデジタル教科書になる。三つの形態から本町はどれを選びその理由は何か。

答 **教育長**
学習目的や児童生徒の特性に応じて使い分けることが出来るハイブリットを考えている。

質問 4号線沿いに道の駅設置を

答弁 今は財政的にチャレンジできない





羽根田（はねだ） ひとみ 議員

問 本町の玄関口である4号線沿いに、道の駅を設置しては如何か。国土交通省が推進する道の駅は単なる休憩施設にとどまらず、地域の情報発信拠点としての役割を担っている。観光振興及び地域経済活性化の起爆剤として必要と考えるが。

答 町長
『道の駅』登録・案内要綱」において、「道の駅」相互の機能分担の観点から、適切な位置にあることとさだめられていることから、既に近隣に整備されていることを踏まえると、本町での設置は困難である。



コンセプトを活かした人気の道の駅

問 すでに近隣に道の駅がある為、同じようなコンセプトでは駄目であることは承知している。ならば異なるコンセプトを提案する。また、東北中央道インターチェンジができ、今年イオンが開業することで交通量が増加する。そして、北道路の検討もされている。以前とは状況が変わることから検討しては。

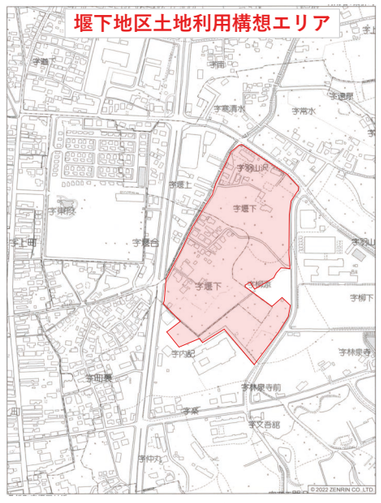
答 町長
義務教育学校の設立の為しばらくは財政的に厳しい。今はチャレンジできない。

質問 中学校西側地区の開発構想は

答弁 子育て世代向け住宅開発を

問 土地利用構想の説明会が開催された。改めて開発の目的を伺う。

答 町長
イオンモールの開店を好機とし、子育て世代向け移住・定住推進を目的に民間主体による周辺環境と調和した住宅開発を進める。



道路予備設計及び測量範囲

問 民間事業者から意見をもらってから、町の構想を固めるとのことだが、『頭の良くなる・運動神経が良くなる』家・通学路」など仕掛けを考えては。

答 町長
それも含め民間から意見をもらいプロポーザル公募により選定していく。

これも質問

問 首都圏・全国への町のPRは成功したか

答 県外からの来訪者が全体の72％効果発揮

問 由来大事にチラシ等「こおり」を漢字表記に

答 歴史を理解する機会を設け柔軟に選別・判断

質問 避難所での暑さ対策は

答弁 冷房設備とスポットクーラーで



半澤（はんざわ） 高（たかし） 議員

問 7月28日に発生した令和8年熊本地震では、避難所において真夏の「暑さ」と「トイレ」が問題になっているとの報道があった。そこで桑折町における避難所での①暑さ対策と②トイレのニオイ対策について伺う。

答 町長
①原則として「イコーゼ！」など冷房設備が整った施設を避難所として開設することとし、冷房がない施設（体育館など）については可搬型のスポットクーラーにより対応する。②仮設トイレについてはラップ式トイレ17基のほか、温度変化の影響を受けにくい箇所に設置する事はもとより定期的な清掃や消臭剤の使用により対策を講じる。



防災訓練のようす

質問 町有地の管理等について

答弁 駅北側駐車場跡地は

問 町有地等の管理について2点伺う。①桑折駅北側駐車場跡地の売却、利活用について現時点での進捗状況、②町有地の樹木の手入れ、雑草刈取り等どのように実施しているのか。

答 町長
①桑折駅北側駐車場跡地については、昨年11月と今年1月に一般競争入札を行ったが、応札者がなく不調に終わったため、現在即売方式に変更し、売却に向けて取り組んでいる。②町有地については必要に応じて業者に委託し、剪定や伐採、草刈等を実施し、町民生活に支障がないように適正管理に努めている。

これも質問

問 住みここちランキング県内1位　今後は

答 総合計画各種施策を確実に推進していく

質問 県内統一後の国保税負担は

答弁 現行の水準を維持する



岡本（おかもと） 貴士（たかし） 議員

問 県内では、国保税水準の「完全統一」が令和11年度に予定され、現在はその移行期間にある。人口減少や高齢化が進む中、被保険者の保険税負担の軽減と、国保事業の健全な財政運営をどのように両立していくのか、町の取り組みを伺う。

答 町長 特定健診・特定保健指導や生活習慣病の重症化予防に取り組み、医療費の抑制に努める。また、保険税の収納率向上を図り、健全な財政運営を維持しながら、セーフティーネットとしての国保制度を堅持していく。低所得者に対する7割・5割・2割の保険税軽減措置についても、引き続き実施していく。



統一すると桑折町の国保はどう変わる

質問 伊達桑折 IC 周辺の企業誘致は

答弁 福島県と連携し開発実現図る

問 伊達桑折インターチェンジ周辺の三角地区では、民間事業者による工場・物流団地の開発が計画され、町は令和11年度までに開発面積19万㎡を目標としている。しかし、現時点では具体的な進展が見えにくい。現在の進捗状況と課題、今後の支援策を伺う。

答 町長 民間主導による企業誘致が難航しており、「第2期福島県県北地域基本計画」との整合を図ることも課題となっている。今後も福島県から企業進出に関する情報を収集するとともに、民間事業者と県関係部署との合同打ち合わせを適宜開催し、開発の実現を目指していく。



税収増・雇用増を見込める企業誘致

質問 本町の降雹被害で桃の状況は

答弁 出荷量は前年増又雨で品質に苦慮



川村（かわむら） 滋道（しげみち） 議員

問 降ひょう被害にあった農家は成長段階で少しの期待はあったが出荷してみると北沢地区では其のうち3分の2は規格外として返されたという方もいる。5月の降ひょうと遅い梅雨明けで実が青い状態で落下するというダブル被害を受けて「泣き面にハチ」状況だと聞いた。本町全体では地域的な格差があると思うがどのような状況であるのか伺う。

答 町長 令和8年産桃については出荷ピーク時が昨年より早まった結果7月末現在の両農協出荷量は827・3トンと前年を大きく上回ると共にひょう被害果の量も2%程度にとどまるなど順調に推移しておりました。しかしながら8月に入り低温多雨の影響により特秀比率の低下や傷害果の増加など、品質の確保に苦慮する状況が続いたと伺っている。



生育した桃の傷害果

質問 本町の文化財保存会の活動認識は

答弁 歴史的遺産の保存に貢献している

問 昭和41年に桑折町文化財保存会が設立された。当初の会員数は153名で近隣市町村に先駆けての発足でスタートした。平成2年度の888名会員をピークに現在は336名。会員の老齢化による自然退会が原因。桑折町の貴重な文化財保護の役割は今後も必要な活動である。文化財保存会についてどのような認識か伺う。

答 町長 昭和41年の設立以来、指定・未指定文化財の保護と活用、機関誌「ぬかりの里」における調査・研究成果の公表、顕彰活動や講演会の開催等を通じて歴史と文化の町を標榜する本町にあって有形無形の歴史的遺産の保存と次世代への継承、郷土愛の醸成に貢献いただいている。



文化財保存会機関紙「ぬかりの里」

これも質問

問 義務教育学校基本構想等検討委員会の提言は

答 9月4日報告をもらい教育委員会で案協議中

問 町で18歳以上の自衛隊への名簿提出は

答 名簿は現時点において提供していない

問 運転免許証自主返納者の支援事業申請者は

答 前年41名、今年51名と増加傾向にある

質問 簡易水道町営化しての統合検討を

答弁 水道基本計画を策定してのち検討



動画 movie

齋藤（さいとう） 松夫（まつお） 議員

問 水道料金引き上げを招かない第5次水道拡張事業とするため、国の財政支援（補助金・交付金・元利償還金への交付税措置）を引き出すことが肝要である。基本計画策定もこの立場で策定する必要があると考えるがどうか。どの補助事業が該当するかの特定は時間が必要であるが、一案として8つの民営簡易水道を町が譲り受け町営の簡易水道として後、「簡易水道と上水道を統合する第5次拡張事業」として国補助適用を検討してはどうか。

答 町長 国の財政支援を受けるための基本計画策定という考えは、順序が逆である。基本計画をまず策定し国の補助要件にあてはまれば補助事業として第5次拡張事業をすすめるというのが基本である。よってまず基本計画を策定し、その後において国補助適用について検討する考えである。

質問 文科省手引き通り住民合意めざせ

答弁 義務教育学校設置に向け事業推進

問 醸中敷地内に義務教育学校を設置する町方針は、文科省が発表している「学校統廃合の手引き（略）」にある「児童生徒の現保護者や将来の保護者・住民の理解を得てすすめるべき」とした趣旨に反する。保護者対象のアンケートでは小中学校統合賛成者は26％だ。いまいちど小中学校のあり方検討委員会提言にたちかえって事務をやり直すべきだ。また統合小学校を醸芳小敷地内に建設する検討を行わないのはなぜか。「はじめに義務教育学校ありき」ですすめたからでないか。

答 教育長 義務教育学校設置は、教育委員会はもとより町政策会議において決定したものであり、着実に事業を推進する。



児童数多く町中心部から小学校をなくす理由語らず

これも質問

問 公立藤田病院への町操出金の有無を伺う

答 特別交付税額を負担金として全額支出

問 審査委員会答申書は反論書に触れていない

答 答申書は最終的結論及び判断の要旨に限る